

大会規定

〈大会運営に関する特別規定〉

1. 本大会は公認野球規則を適用し、本大会特別規定ならびに申し合わせ事項に従って執り行うものとする。
2. 大会期間中は島原市営球場に大会本部を設置、各会場に責任者を置いて円滑な試合進行ならびにトラブルの防止、解決に努めるものとする。
3. 各チームの責任者は、大会期間中の選手及びチームの行動に対して責任を負うものとする。
4. 大会本部は、選手の負傷または疾病に対して応急の処置は施すが、それ以上の責は負わない。
5. 試合開始予定時刻は天候及びグラウンド状況、大会進行状況により大会本部で協議のうえ変更する場合がある。

〈競技に関する特別規定〉

1. チームは登録選手10名以上の単独チームとする。
2. ベンチに入ることができるのは審査を受けた選手20名以内、及び指導者（監督・コーチ・記録・マネージャー）5名以内とする。
○登録された選手は試合毎に審査を受ければ入れ替える事ができる。
3. ベンチは予選リーグ及び決勝トーナメントともに組合せ表に従い、それぞれ1塁側と3塁側に入る。
4. オーダーの交換は球場責任者の指示に従い、連盟指定のメンバー表3部を本部に提出する。
○本大会はDH制を採用する。
○申告敬遠は投球数にカウントせず、敬遠に至るまでに投じた投球はカウントする。
○メンバー表提出時に球場責任者の立ち会いのもと、両チーム主将のジャンケンにより攻守の順を決める。
○攻守の順が決まった後、球場責任者及びベンチ了解のうえでブルペンでの投球練習を認める。但しグラウンド内ブルペンは試合が終了するまで使用できない。
5. 各試合は7イニングまたは試合開始から2時間で行う。
○2時間を超えて新しいイニングには入らず、4回終了（先攻が負けている場合は4回表）をもって試合成立とする。
6. 7回が2時間以内で終了し同点の場合は延長戦に入る。但し2時間を超えて新しいイニングには入らない。
7. 延長戦を含め、2時間を超えて同点の場合は、1アウト満塁でエキストライニングを行い勝敗を決する（時間制限なし）。
○打順は前回正規に打撃を完了した打者の次打者からとし、走者は前回最終打者が1塁、その前打者が2塁、その前々打者が3塁走者となる。この場合の代打及び代走は認められる。
8. 降雨、視界不良などにより試合続行が困難な場合は4回終了（先攻が負けている場合は4回表）をもって試合成立とする。
○4回以前の場合は再試合とし、サスペンデッドゲームは適用しない。
○可否は球場責任者及び審判員が協議のうえ決定し、両チーム監督の了解を得る。
9. 4回10点差・5回7点差でコールドゲームとする。但し決勝戦はコールドゲームを適用しない。
10. 投手の投球数は、1日最大80球以内とし、連続する2日間で120球以内とする。（中学統一ガイドラインより）
○投手の投球数は試合ごとに確認し、レインボーリーグの投球数報告書を使用し本部へ必ず提出すること。
11. 指導者がバッテリーまたは野手に対し指示、アドバイスを与える目的でタイムを要求できるのは延長戦、エキストライニングを含め1試合で3回までとする。
12. 指導者が投手に対し指示、アドバイスを与える目的でタイムを要求できるのは1イニング1回までとし、2回目は投手交代を告げなければならない。
○一旦シートを変更した投手は、次の投手が1打席投球完了後再び投手の位置につくことができる。
13. 指導者またはキャッチャーがタイムを要求しマウンドまで行く場合、内野手が集まることは妨げない。指導者はファールラインを超えないこと。
14. 選手交代は監督が球審に告げるものとし、選手自ら告げることは認めない。
15. 特別な事情（負傷による応急治療など）で審判が必要と判断した場合、臨時的特別代走を適用する。但しこの場合の代走者は当該選手の最も近い打撃の完了した選手（バッテリーを除く）に限られる。
16. 捕手は試合、練習を問わず防具を着用すること。
○投球練習時の臨時捕手及びブルペン捕手は規定防具を着用しなければならない。※ヘルメット/マスク/ゴートガード/プロテクター/カブス/セーフティキャップ
17. グラウンドに関する特別規定は、大会主催者が球場責任者及び審判員と協議、判断して試合開始前に公示する。
18. 4回終了時、5分間の給水タイムを取る。
19. その他の規定はレインボーリーグの申し合わせ事項に従うこと。

〈 試合形式・進行に関する特別規定 〉

1. 4パートで予選リーグ戦（各チーム2試合）を行い、各パート1位チームは決勝トーナメントへ進む。
各パートで勝敗数が同じ場合は、①得失点差とする。②得失点差が同じ場合は失点が少ない方を上位とする。
③同じ場合は抽選クジ引きとする。○この場合に延長戦の得失点は算入するが、エキストラインニングは除外される。
2. 球審は主催者側で配するものとする。予選リーグ戦は塁審割り当て表にて、決勝トーナメントは4審制で執り行う。
3. 円滑な試合進行を図るため、原則として対戦する双方はアナウンス（記録・放送）2名を本部席に配することを要請する。

大会審査要項

1. 審査は大会役員2名が行い、各球団代表が立ち会う。（各チームの選手登録名簿にて行う）
2. ベンチに入る選手・指導者（監督・コーチ・マネージャー）と登録名簿を照合する。
○審査対象は登録名簿に記載された選手（20名以内）と指導者（監督・コーチ・マネージャー）5名以内で、審査を通った者以外はベンチに入れない。
○選手が10名に満たない場合はチームの出場はできない。
○背番号は登録された番号通りとし、変更は認めない。
3. ベンチ内に持ち込む用具一式を点検し、破損したもの、規格外のものは持ち込みを認めない。
○グローブは同色、ヘルメットは7個以上、同色で完全なものを揃えること。
○捕手用規定防具2セットを揃えること。
○バットは中学生硬式専用に限らない
○リング・鉄棒の持ち込みは禁止する（マスコットバット可）。
4. 選手の剃り込み、髪髻、眉剃り、ベルト位置等を確認し、不適格者は球場責任者の判断で出場停止を宣言できる。
5. 指導者の代行申請は以下の通りとする。
○監督不在の場合、本部に代行申請の手続をとればコーチの監督代行を認める。
○マネージャー不在の場合、本部に代行申請の手続をとればチーム役員に限り代行を認める。

申し合わせ注意事項

1. 会場に到着したチームは全員で本部に到着挨拶をすること。
続いて球場責任者の指示に従い、速やかに試合前の練習及び選手審査の準備を整えること。
2. 試合前シートノックは決勝トーナメント（準決勝戦）のみとし、予選リーグ戦では行わない。
○シートノックは7分間、後攻のチームから行うものとする。
○ノックを補助する選手がグラウンドに立つ場合は必ずヘルメットを着用すること。
3. 試合中各チームは、ベンチサイドにヘルメットを着用したボールボーイを配置すること。
4. 手袋（白または黒）及びリストバンドの着用は認める。但し投手はマウンド上での着用はできない。又、派手な色を使用しない。
5. 打者のエルボーガード及びレッグガードの着用は認める。但し着脱のためのタイムは打者が2塁上に達した場合のみとし、その際ランナーコーチが速やかに取りに行くこと。
6. ネクストバッターはサークル内では投球動作に入ったら片膝をついて待機すること。
7. 試合中グラウンド内でのキャッチボールは投手のピッチング練習を含め2組まで認める。但し必ず危険防止措置をとること。またグラウンド内でのバットスイングは不可とする。
8. 隠し球及び捕手がスタンディングでの敬遠は禁止する。
9. 1・3塁コーチスボックスに監督及びコーチが立つことは妨げない。
10. グラウンド内でのサングラスの使用は禁止する。但し医師の指示がある場合はその限りでない。
11. 試合進行の迅速化とフェアプレイに努めること。